

外国語科目の学修

外国語学修の意義

21世紀はグローバル化が拡大し、世界の時間と空間が縮小化されていく時代であり、そこでは異なる言語文化を有する者同士でコミュニケーションを図ることがますます重要になってきています。このようにボーダーレス化した社会を生き抜くためには、外国語（世界共通語としての英語だけでなく、国際言語であるドイツ語・フランス語・中国語など）の修得は必須条件といえます。これは研究活動であれ、ビジネスや社会活動であれ、同じです。

外国語の修得は、いわゆる外国語学部や国際学部などの学部だけでなく、法学部の学生である皆さんにとっても有意義であることを認識してほしいと思います。なぜなら、外国語を修得することによって、これから法学部で専門の知識を身に付け、それを基盤として世界に羽ばたく真の「国際人」を目指すことが可能になるからです。

法学部では、こうした志を実現するために必要なカリキュラムとスタッフを十分に備えています。大学での外国語学修では、「言語を学ぶ」ことから「言語で学ぶ」ことへの転換を目指します。言語を学んだ先には、専門的な知識を吸収したり考えを発信したりするために、その言語を道具として応用することを学びます。言語を学ぶことは、ただその言語の仕組みを知ることにとどまらず、その言語の向こう側にある文化を学ぶことにもなるのです。

必修外国語（英語）も選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）も皆さん一人一人の進路や目標に合わせて様々な科目が設置されており、自ら計画を立てて履修できるようになっています。さらに随意選択外国語（スペイン語・韓国語・ロシア語）も履修でき、多言語・多文化の学修が可能なシステムとなっています。

法学部での外国語学修は、これから学ぶ皆さんが真の「国際人」として社会に飛び出すために必要な土台となります。大学4年間でしっかりと土台を築き、世界に羽ばたいていくことを願っています。

Ⅲ群 外国語科目履修表（各学科共通）

区分	言語	授 業 科 目	単位数	履修開始年次	履 修 方 法
必修	英語	英語A～H	各1	1	必修外国語として英語8単位以上、選択必修外国語としてドイツ語・フランス語・中国語の中から1か国語6単位以上、計14単位以上修得しなければならない。
		人文系英語演習A・B	各1	1	
		社会系英語演習A・B	各1	1	
		英検/IELTS I A～IV B	各1	1	
		TOEFL I A～IV B	各1	1	
		TOEIC I A～IV B	各1	1	
		Communication I A～IV B	各1	1	
		Reading I A～III B	各1	1	
		Writing I A～III B	各1	1	
		国際研修（英）I A・I B	各1	1	
		国際研修（英）II～V	各2	1	
選択必修	ドイツ語	ドイツ語基礎表現A・B	各1	1	
		ドイツ語基礎文法A・B	各1	1	
		人文系ドイツ語演習A・B	各1	1	
		社会系ドイツ語演習A・B	各1	1	
		ドイツ語資格試験対策I A～III B	各1	1	
		国際研修（独）I A・I B	各1	1	
		国際研修（独）II・III	各2	1	
		コミュニケーション（独）I A～III B	各1	1	
		ライティング（独）I A～II B	各1	1	
	フランス語	フランス語基礎表現A・B	各1	1	
		フランス語基礎文法A・B	各1	1	
		人文系フランス語演習A・B	各1	1	
		社会系フランス語演習A・B	各1	1	
		フランス語資格試験対策I A～III B	各1	1	
		国際研修（仏）I A・I B	各1	1	
		国際研修（仏）II・III	各2	1	
		コミュニケーション（仏）I A～III B	各1	1	
		ライティング（仏）I A～II B	各1	1	
	中国語	中国語基礎表現A・B	各1	1	
		中国語基礎文法A・B	各1	1	
		人文系中国語演習A・B	各1	1	
		社会系中国語演習A・B	各1	1	
		中国語資格試験対策I A～III B	各1	1	
		国際研修（中）I A・I B	各1	1	
		国際研修（中）II・III	各2	1	
		コミュニケーション（中）I A～III B	各1	1	
		ライティング（中）I A～II B	各1	1	
随意	スペイン語	スペイン語I A～II B	各1	1	スペイン語・韓国語・ロシア語（外国人留学生は母語を除く）は、外国語科目としては認定しないが、学科によっては卒業単位数に算入することができる。
	韓国語	韓国語I A～II B	各1	1	
		国際研修（韓）	2	1	
	ロシア語	ロシア語I A～II B	各1	1	

Ⅲ群 外国語科目履修表（各学科共通）

【留学生】

区分	言語	授 業 科 目	単位数	履修開始年次	履 修 方 法
必修	日本語	日本語ⅠA～ⅡB	各1	1	必修外国語として日本語8単位、選択必修外国語として英語・ドイツ語・フランス語・中国語の中から1か国語（母語を除く）6単位以上、計14単位以上修得しなければならない。
		日本語ⅢA～ⅣB	各1	2	
選択必修	英語	英語A～H	各1	1	
		人文系英語演習A・B	各1	1	
		社会系英語演習A・B	各1	1	
		英検／IELTSⅠA～ⅣB	各1	1	
		TOEFLⅠA～ⅣB	各1	1	
		TOEICⅠA～ⅣB	各1	1	
		CommunicationⅠA～ⅣB	各1	1	
		ReadingⅠA～ⅢB	各1	1	
		WritingⅠA～ⅢB	各1	1	
		国際研修（英）ⅠA・ⅠB	各1	1	
	国際研修（英）Ⅱ～Ⅴ	各2	1		
	ドイツ語	ドイツ語基礎表現A・B	各1	1	
		ドイツ語基礎文法A・B	各1	1	
		人文系ドイツ語演習A・B	各1	1	
		社会系ドイツ語演習A・B	各1	1	
		ドイツ語資格試験対策ⅠA～ⅢB	各1	1	
		国際研修（独）ⅠA・ⅠB	各1	1	
		国際研修（独）Ⅱ・Ⅲ	各2	1	
		コミュニケーション（独）ⅠA～ⅢB	各1	1	
	ライティング（独）ⅠA～ⅡB	各1	1		
	フランス語	フランス語基礎表現A・B	各1	1	
		フランス語基礎文法A・B	各1	1	
		人文系フランス語演習A・B	各1	1	
		社会系フランス語演習A・B	各1	1	
		フランス語資格試験対策ⅠA～ⅢB	各1	1	
		国際研修（仏）ⅠA・ⅠB	各1	1	
		国際研修（仏）Ⅱ・Ⅲ	各2	1	
		コミュニケーション（仏）ⅠA～ⅢB	各1	1	
ライティング（仏）ⅠA～ⅡB	各1	1			
中国語	中国語基礎表現A・B	各1	1		
	中国語基礎文法A・B	各1	1		
	人文系中国語演習A・B	各1	1		
	社会系中国語演習A・B	各1	1		
	中国語資格試験対策ⅠA～ⅢB	各1	1		
	国際研修（中）ⅠA・ⅠB	各1	1		
	国際研修（中）Ⅱ・Ⅲ	各2	1		
	コミュニケーション（中）ⅠA～ⅢB	各1	1		
ライティング（中）ⅠA～ⅡB	各1	1			
随意	スペイン語	スペイン語ⅠA～ⅡB	各1	1	スペイン語・韓国語・ロシア語（母語を除く）は、外国語科目としては認定しないが、学科によっては卒業単位数に算入することができる。
	韓国語	韓国語ⅠA～ⅡB	各1	1	
		国際研修（韓）	2	1	
ロシア語	ロシア語ⅠA～ⅡB	各1	1		

必修外国語（英語）の学修の目的

「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ！

英語は多くの国や地域で公用語として使われる世界共通語となっています。就職や大学院進学の際に、英語の資格試験の結果やスコアが求められるなど、ますます英語力が求められるようになっていくことは皆さんもお気づきでしょう。公務員試験でも英語資格試験の結果が点数に加算されることが多くなっています。また就職した後も英語が社内で公用語化されたり、昇進の条件として資格試験のスコアが義務付けられるなど、英語力を必要とされる機会が増えているのです。

こうした社会のニーズを考えると、これからは単に資格試験の結果で英語力を示すばかりでなく、身につけた英語で発信する力も問われてくるでしょう。つまり、英語をコミュニケーションのツールとして、ディスカッション、ディベートやプレゼンテーションを行ったり、論文やリサーチ・プロジェクトを英語で書いたりすることです。またゼミナールなどで専門領域を学ぶ上でも必要な英語の基礎力を身につけていかななくてはなりません。

皆さんは、1年次のうちから就職活動や進学までにどの程度の力が必要とされるのかを見極め、4年間の計画を立てた上で英語の学修に励んでください。

英語科目の特色

I. ベーシック・イングリッシュ

Basic English Skills

(A～Hはそれぞれ1単位)

英語A・B、英語C・D（1年次共通英語）

英語の4スキルの基礎固めを目的とするクラスです。1年次は、原則としてクラス指定の英語A（前学期）・英語B（後学期）〈リーディング・文法など〉と、英語C（前学期）・英語D（後学期）〈リスニング・スピーキングなど〉を受講します。クラスは入学前にオンラインで受験するプレイズメント・テストで決められます。

英語E～H 特別選抜 Sコース

Sコース（第一部のみ）は英語を集中的に学修したいと考える学生向けの特別選抜による精鋭コースです。プレイズメント・テストの成績上位者で本コースを希望する学生は、通常の1年次共通英語クラスに加えて、Sコース専用の英語E・Fを履修することができます。2年次にはG・Hを継続して履修できます。

II. アカデミック・イングリッシュ

English for Academic Purposes

(A・Bはそれぞれ1単位)

人文系英語演習A・B、社会系英語演習A・B

英語演習は国際的な教養人を育成するための科目です。人文系英語演習では人文学（言語、哲学、文学、思想、芸術、文化など）に関連する文献、また社会系英語演習では歴史や社会に関する文献がテキストとして取り上げられます。

授業ではテキストを読むだけでなく、発表や意見交換を行うことで幅広い視野と教養を身につけ、コミュニケーション力、判断力、思考力を養います。前期のAに続き、Bはさらに発展的な内容になっていますので、通年で履修することが望ましいでしょう。

Ⅲ. キャリア・イングリッシュ
English for Careers
(A・Bはそれぞれ1単位)

英検/IELTS I A・B～IV A・B
TOEFL I A・B～IV A・B
TOEIC I A・B～IV A・B

英語資格試験対策のクラスです。就職にはTOEICや英検を、そして留学にはTOEFLやIELTSを受講するとよいでしょう。それぞれの資格試験クラスは初級Iから上級IVの4レベルに分かれています。前学期はA、そして後学期はBですが、原則として通年で受講してください。

Ⅳ. スキルアップ・イングリッシュ
English Skills
(A・Bはそれぞれ1単位)

Communication I A・B～IV A・B
Reading I A・B～III A・B
Writing I A・B～III A・B

「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」の英語4技能をさらに磨くためにそれぞれレベル別に設定されています。Communicationのクラスの多くはネイティブの教員が担当し、インタラクティブな授業のなかで発信力を磨きます。Communicationの上級レベルに該当する授業は英語のみで授業が行われます。Readingクラスには精読力・速読力を養うクラスやメディア関連の英語を読む力を養うクラスなどがあります。Writingクラスは簡単な英文や仕事に役立つEメールの書き方を学ぶクラス、そしてTOEFLやTOEIC Speaking & Writingなどの資格試験に対応するための英文エッセイを書く力を養成するクラスなどが含まれます。

Ⅴ. スタディー・アブロード
Study Abroad Programs

国際研修 I A・I B (通常授業, それぞれ1単位)
国際研修 II～V (それぞれ2単位)

法学部では、英語の実践的能力を向上させることを目的とし、短期語学研修の単位認定をしています。短期語学研修には法学部が実施するものと、日本大学本部が実施するものがあります。法学部では、ダブリンシティ大学夏期語学研修(アイルランド)、春休みの短期集中英語研修(国内)を実施しています。また日本大学本部では、ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ(英国)と1年生のみが参加できるボンド大学(オーストラリア)での1か月間の研修を実施しています。研修ではそれぞれ2単位が認定されます。さらに、これらの研修や留学を目指す学生を対象とした授業科目(国際研修 I A・I B)も設置されています。

【履修の方法と注意】

1. 英語は卒業までに8単位の修得が必修となっています。
2. 英語A～Dは、1年次の学科指定クラスで、入学前のプレイズメント・テストによりクラスが決定されます。1年次は原則としてこれらのクラスを履修してください。法曹コースの学生は合わせて、指定のReading II A・Bも履修してください。Sコース(特別選抜クラス)を希望する学生も英語A・Bと英語C・Dを合わせて履修してください。
3. 科目名の後ろのA・Bは前学期・後学期を表します。原則として、どの科目もA・Bを通して通年で履修をしてください。
4. キャリア・イングリッシュ、及びスキルアップ・イングリッシュの授業科目に付されたI～IVはレベルを表わします。
5. 日本大学の交換留学を目指す場合は、TOEFLのスコア(iBT 61点以上、ITP 500点以上)が必要です。1年次から計画的に準備を始めてください。

なお、詳細は下記の日本大学HPをご覧ください。

日本大学 留学・国際交流 www.nihon-u.ac.jp/international/

選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）科目の学修の目的

どうして英語以外の外国語を学ぶのでしょうか。その問いに対する答えは、「皆さんは大学生だから」です。グローバル化の現代にあって、母語以外にたった一つの言語にしか触れたことのない人々が中核をなす国は、世界とのコンタクトにおいてハンディを負うことになるでしょう。なぜなら言語はコミュニケーションの手段であるとともに、異文化を深く理解し受容するために不可欠のものであるからです。それに異文化を知ることなくしては、自国の文化を真に理解することも難しいでしょう。EUを例にとってみましょう。EUの言語政策の目的は、「複数言語能力の育成」と「多文化理解」にあります。それによって政治的・経済的成功がもたらされ、異文化圏に属する人々の間につながりが生まれ、偏見やレイシズム（人種差別）を根絶し、よりよい社会を創ることができる、との確信がその背景にあります。この言語観は、人権や民主主義の考え方と通底しているといえます。

我が国においては、英語の必要性がさかんに喧伝^{けんてん}されていますが、やがて社会人として指導的役割を担って活躍する皆さんには、英語だけでは不十分です。+αの知識が要求されるでしょう。グローバル化の潮流の中で、日本国内でもさまざまな国籍の外国人と接する機会が多くあり、駐在員として諸外国で生活する人も増えています。つまり、多くの外国語を知る人はそれだけ活躍の場を広げることができます。さらに研究者を目指す人には、2つ以上の外国語の知識が必要なはいうまでもありません。もちろん、言語学習にはこのような有用性ととも、人間の多様性を受け入れ他者を理解できる柔軟な精神を獲得し、世界の平和と協調に貢献できる人材になるという目的もあります。

皆さんの大部分にとって、ドイツ語・フランス語・中国語は初めて学ぶ言語のはずです。誰もがゼロからの出発ですから、新たな気持ちで取り組んでください。興味をもって学修することが成果につながります。本学部においては、高度なレベルの言語能力が身につくよう、以下に見るとおり多彩な科目が設置されています。

選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）科目の特色

選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）のカリキュラムは、以下の5つのジャンルで構成されています。

- <1> ドイツ語・フランス語・中国語 基礎文法A/B
ドイツ語・フランス語・中国語 基礎表現A/B
- <2> ドイツ語・フランス語・中国語 人文系演習A/B, 社会系演習A/B
- <3> ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーションI A/B～III A/B
ドイツ語・フランス語・中国語 ライティングI A/B, II A/B
- <4> ドイツ語・フランス語・中国語 資格試験対策I A/B～III A/B
- <5> ドイツ語・フランス語・中国語 国際研修I A/B, II, III

(注1) Aは前学期に、Bは後学期に開講。原則として同一教員・同一曜日・同一時間帯でA、Bを履修すること。

(注2) 国際研修II, IIIは短期語学研修参加者のための単位です。

上記の各ジャンル設置科目の目的・特徴は以下の通り。

- <1> 基礎文法A/B・基礎表現A/B (A, Bはそれぞれ1単位)
「基礎文法」では、「聞く・話す・読む・書く」能力の基礎となる文法を学びます。「基礎表現」では「聞く・話す・読む・書く」能力を養成するための初歩的演習を行います。
- <2> 人文系演習A/B, 社会系演習A/B (A, Bはそれぞれ1単位)
「基礎文法」「基礎表現」で得た知識をもとに各外国語の読解能力の涵養ばかりでなく、各国の過去・現在の諸相について総合的な知識の獲得を目指します。
A (前学期開講) からB (後学期開講) へより発展的な内容となるので、同一教員、同一曜日・同一時間帯

でAとBを受講してください。

< 3 > コミュニケーションⅠA／B～ⅢA／B，ライティングⅠA／B・ⅡA／B（A，Bはそれぞれ1単位）

コミュニケーションは、いわゆる「会話」の科目です。ⅠからⅢまで難易度別に、Ⅰ：基礎、Ⅱ：初級、Ⅲ：中級。このジャンルの担当者は原則としてネイティブ・スピーカー。基本的に「聞く・話す」能力の涵養を目指します。Ⅲまで履修して、日常会話で意思疎通がスムーズにできるレベルに到達しましょう。

「聞く・話す」という口頭の訓練だけでは、広範なコミュニケーション能力は身につけません。よりレベルの高いコミュニケーション実践のためにライティング科目があり、「読む・書く」能力の涵養を目指します。

< 4 > 資格試験対策ⅠA／B～ⅢA／B（A，Bはそれぞれ1単位）

ドイツ語・フランス語・中国語それぞれに語学検定試験があり、このジャンルは、それらの試験に合格するための準備科目です。さまざまな資格を有することで多彩な能力の証明ができ、就職に有利に働きます。語学検定試験の重要度はますます増大しています。

< 5 > 国際研修ⅠA／B・Ⅱ・Ⅲ（A，Bはそれぞれ1単位）*Ⅱ・Ⅲはそれぞれ2単位

ドイツ語ではウィーン大学、フランス語ではアヴィニオン大学、中国語では中国科技大学で短期語学研修を実施しています。それらの研修に参加するための準備およびアフターケア、さらには長期の留学の準備をするための科目が、国際研修ⅠA／Bです。また上記の語学研修で修得した単位（2単位）もこのジャンル（国際研修Ⅱ・Ⅲ）で認定されます。

選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）科目の履修方法

上に掲げた＜1＞～＜5＞の科目はすべて受講可能であり、また、修得した単位はすべて認定されます。ただし卒業単位（卒業に必要な単位）としては、選択必修外国語の必修単位である6単位のほかⅠ群からⅦ群までの中から選択する科目の単位数（学科によって異なる）の範囲内での認定となります。これは第一部、第二部、各学科共通です。

どの科目も制度的には1年次から履修できますが、ドイツ語・フランス語・中国語でそれぞれに履修に関する留意点が異なるので、以下を参照してください。

原則として、Aは前学期に、Bは後学期に開講されます。

ドイツ語：学修1年目では、原則ドイツ語基礎文法A／Bとドイツ語基礎表現A／Bを履修します。なお、1年目にドイツ語基礎文法A／B、ドイツ語基礎表現A／Bを修得できなかった場合には、翌年度に履修してください。

フランス語：学修1年目では、フランス語基礎文法A／Bとフランス語基礎表現A／Bとの組み合わせを履修します。なお、1年目に以上の科目を修得できなかった場合には翌年度に履修してください。

中国語：学修1年目では、中国語基礎文法A／B、中国語基礎表現A／Bを履修します。特に資格試験方面を希望する人は、中国語基礎表現A／Bの代わりに中国語資格試験対策ⅠA／Bを履修するケースもあります。なお、1年目に中国語基礎文法A／B、中国語基礎表現A／B、中国語資格試験対策ⅠA／Bを全く修得できなかった場合は、翌年度に履修して下さい。

選択必修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語）の学修方法

ドイツ語の学修方法

皆さんの中には、ヨーロッパの歴史や文化に関心がある、クラシック音楽が好き、サッカーのブンデスリーガに興味がある、ドイツ車に乗ってみたい、あるいは、経済力の強いドイツに行って、将来ビジネスで活躍したい、という人もいるかもしれませんね。

大学生になったのを機にドイツ語を習得し、ドイツ語を通して魅力あるドイツ語圏の世界へ足を踏み入れてみませんか。

ドイツ語と英語とは言語学的にきょうだいの関係ですから、英語の知識を生かして、もう一か国語を習うのなら、ドイツ語が一番取り組みやすい言葉だと思います。

では、実際に、ドイツ語をどのようにして勉強すればよいかお話ししましょう。

1年目：最初に、発音を覚え、語彙を少しずつ増やし、ドイツ語の仕組みを理解することから始めていきます。発音は難しくありません。名詞は大文字で書き始めますし、文中における動詞の位置も決まっています。

確かに、ドイツ語は語形変化が複雑だということを耳にします。しかし、英語にはそれがないから難しく、ドイツ語はそれがあるからこそ明晰で、理解しやすいとも言えるのです。授業を受けていくうちに、その意味がわかるはずですよ。

2年目以降：語彙を豊かにして、文法知識を着実につけていきます。2年目に入ると、辞書で単語を調べても、何を言っているかわからない、どうも意味が取れない、ということにぶつかります。勉強のためのポイントは「文法をゆるがせにしないこと」です。ドイツ語は英語よりも文法が論理的でがっちりしていますから、知れば知るほど後が楽になります。

あと、ドイツ語の勉強の仕方には、そのような「文法型」以外に、「実践型」があります。

本学部では、夏休みにオーストリアのウィーン大学で1ヵ月間、ドイツ語研修を実施しています。世界中の人達とともに集中的にドイツ語で授業を受けます。課外では世界遺産の宮殿や博物館巡り、音楽の都らしくベートーベンやモーツァルトゆかりの場所への訪問、スイーツの食べ歩きなどを楽しみながら、実用的なドイツ語を身につけていきます。研修後には、きっとドイツ語の知識だけではなく、物の見方がぐんと広がっていると思います。

ドイツ語は勉強すればするほど、魅力を感じる言葉です。ぜひドイツ語の世界に飛び込んでいきましょう。皆さんに教室で会うことを心より楽しみにしています。

以上がドイツ語の学修方法の秘訣です。ぜひ実践してみてください。

1) 英語の知識を活用しよう

restaurant, menu, table, salon, machine, police, culture, civilisation, action, union, second, minute, secret, date...

これらはみな、フランス語からの借用語です。英語の語彙の40%近くがラテン語・フランス語起源であると言われています。また文の構造上もフランス語と英語は似かよっています。ですからフランス語学習には英語の知識が役立ちます。一方、多くの仏和学習辞典には対応する英単語が載っていますから、フランス語を学修しつつ英語の知識を確実にしていくことができます。

2) 論理的に考える習慣をつけよう

「明快でないものは、フランス語でない」と言われるように、フランス語は17世紀以来、客観的規範性を保とうとする努力によって、絶えず整備が行われてきました。

つまりある意味「人工的な言語」なのです。ですから、まる覚えではなく常に「どうしてこうなるのか?」と問う習慣をつけましょう。そして必ず質問すること。皆さんの質問は、教員にとっても大変参考になります。

3) 綴り字の読み方は「習うより慣れる」

仏単語の読み方は規則的で、初級教科書冒頭の2, 3ページ分の規則をマスターすれば容易に読むことができます。「習うより慣れる」で、単語を見たら「どう読むのだろう」と興味をもって自問自答することが大切です。教科書の単語を音読してみて、付属のCDで確認することを勧めます。

4) 発音は少しずつ正確に

フランス語は日本語より母音数が多いものの、日本人はそれと知らずにそれらほとんどの母音を発しています。とはいえ、最初からネイティブのように発音できないのは当たり前。教科書付属のCDなど、オーディオ教材を最大限に利用して、正確な発音を少しずつ身につけていきましょう。授業外でも、「耳に心地よい言葉」と定評のあるフランス語の音に親しむ時間をもってください。

5) 仏検で学修の成果をはかる

キャリアデザインへの意識が高まり、資格を持つことが就職に有利に働く状況の中、ぜひフランス語実用技能検定試験（仏検）に挑戦してみましょう。4, 5級から始めて着実に学修していけば、フランス語を「聞く・話す・読む・書く」ための総合的な力を身につけることができます。

- (1) ここで言う中国語とは北京標準語（普通話）のことです。中国語学習初歩段階における最重要事が発音の修得です。中国語には「拼音字母（ピンインツームー）」と呼ばれるローマ字式発音記号が存在しますが、読み方が英語や日本語ローマ字のそれと少々異なるため、繰り返し発音練習を行い、しっかりと拼音字母を修得することが肝要です。さらに中国語は「声調」というアクセントを持つ言語で、4種類の声調が存在します（第1声・第2声・第3声・第4声）。拼音字母で表される個々の発音に声調をつけて発声しても、乱れずにしっかりと発音できるように繰り返し発音練習を行ってください。
- (2) 初歩段階における発音練習では声を出し継続して練習することが大事です。拼音字母の字面を目で追うだけでなく、音としてしっかりと把握してください。学修1年目の諸君はそのために設置した「中国語基礎8科目（基礎文法A/B、基礎表現A/B、コミュニケーションIA/B、資格試験対策IA/B）」を履修して教員の指示に従って発音練習を進めましょう。
- (3) 初歩段階を終えたら、徐々に単語を覚え始めてください。語彙数が不足すると、何もできません。日中・中日辞典の購入については各教員の指示を参考にし、自分に合ったものを選んで購入してください。
- (4) 中国語文法についてですが、日本語に似ている面も英語に似ている面も見受けられます。しかし中国語は基本的に日本語とも英語とも別系統の言語ですので、類似点の存在は認められても、全く同様であると誤解してはいけません。中国語は中国語として把握すべきです。文法を修得・把握する上で重要なことが例文や表現を覚えることです。このような知識的貯蓄がないと、文法を修得・把握できません。材料が無いと、料理が作れないのと同じ道理です。
- (5) また中国語学習の進展具合を確認する指標として「中国語検定試験」の受験を勧めています。その資格を持っていると就職活動時に有用なこともありますので、奮って受験してください。「中国語資格試験対策I～III A/B」はその対策のために設置された科目ですので、受験希望者は履修することを勧めます。
- (6) 中国大陸で使用される漢字の字体は「簡体字」と呼ばれ、日本の現字体や旧字体とも異なる簡略化された独特の字体です。例えば「橋- 桥」「飯- 饭」「葉- 叶」……という具合です。
- (7) 日中関係のいかんにかかわらず、中国語は非常に有用な言語です。多くの諸君にその学修を勧めます。

外国人留学生の必修外国語「日本語」について

「日本語」の履修方法（重要）

「日本語」は、ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣBの8科目を開講しています。Ⅳに近づくほど、求められる日本語能力のレベルが高くなります。

1科目1単位で、卒業に必要な単位数は8単位です。開講している全ての「日本語」を単位取得しなければ卒業できません。1年次はⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡBをなるべく全て履修してください。2年次以降は、ⅢA・ⅢB・ⅣA・ⅣBを段階的に履修してください。

〈履修例〉

1年次…（前期）ⅠA・ⅡA （後期）ⅠB・ⅡB

2年次…（前期）ⅢA （後期）ⅢB

3年次…（前期）ⅣA （後期）ⅣB

日本語の学修方法

日本語をもう少し意識してみよう！

例えば「さすが」という日本語は、「さすがに……だ」と使われます。一般的に評価の高い事物に対してそれを裏づけるような何かがあったとき、今更のように感心したことを表す場合に用いられます。また、そうは言うもののやはり……、予想していたとおりがやはり……、などの意味もあります。さらに、「さすがの横綱も怪我には勝てない」のように、実力のあるものが評価通りに力を発揮できなかった時にも用いられるように、多様な用法をもつ言葉と言えます。

「さすが」については、こんなエピソードがあります。中国の南北朝時代、晋の孫楚（そんそ）という男が隠居する時、知人に「石に漱（くす）ぎ流れに枕して生活をする」（「漱石枕流」）と話したのです。その時、知人は、「石に枕して流れに漱ぐ」（「枕石漱流」）の間違いではないかと問うと、孫楚は「石に漱いで歯を洗い、流れに枕して耳を洗うためだ」と、とっさに答えたので、知人は「さすがに孫楚だ」と言ったといわれます。それで、矛盾をとりつくろうさまを「流石（りうせき）」と言うようになったとされています。現在の日本語で、「さすが」が「流石」という借字で表記されることがあるのも、こうした中国の故事が元になっているからです。

しかし、今はこのように「とりつくろう」場合には用いられません。先に述べたように「さすがに孫楚だ」と、相手の実力や価値を再認識するときに用いられることが多いのです。このように日本語の中には、中国の故事に由来する表現があります。しかも、語源とは違う意味で用いられていることもあります。ちなみに、夏目漱石の「漱石」も、この故事に基づいています。

一方、韓国語と同じように使用される日本語も存在します。例えば、八世紀の歌集である『万葉集』などに見られる「オモ」がそうです。母父の意味で、「おもしし」という形で使われたりします。この「オモ」は韓国語の「オモニ」と同源であるとする説があります。また、海の神の意である「海神」の「ワタ」も韓国語「バダ」からきているとする説があります。八世紀に成立した歴史書である『日本書紀』には、唐や新羅、百済に関する記事が多く見られ、当時国際交流が盛んであったことがわかります。古代から、日本と中国、韓国は人の交流と共に言葉の交流がありました。言い換えれば、日本と中国、韓国は一つの文化圏であると言ってもいいでしょう。日本語の中に中国語や韓国語と関係の深い言葉があるのも当然のことです。だからこそ、異質さに目を向けるばかりでなく、同質性にも目を向ける必要があるのです。

将来を見据えて

以上のように日本語を学修する際は、その言葉の元々の意味を知ることが大切です。それを知っていると、誤用についても、それが誤用である理由を明確に認識できます。また、日本語への興味もさらに増すことでしょう。これからは、日本語の語彙を増やすだけでなく、なぜそのような言い方、使い方をするのだろうか、ちょっと意識してみしてほしいと思います。そうすれば、あなたの日本語能力はさらに向上するに違いありません。

大学入学は新たなスタートです。ゴールではありません。

年々、日本の企業に就職したい、大学院に進学したいという外国人留学生が増えています。

その際求められるのは、日本語能力です。あなたの日本語能力がどれほどのものか、客観的に示せる資格を取っておくことが重要な要素となります。

日本語を母語としない人を対象にした「日本語能力試験 (JLPT)」のN1は当然合格しておかなければなりません。他に、「BJTビジネス日本語能力テスト (BJT)」や、日本人も受験している「日本語検定」などの受験をお勧めします。

随意選択外国語（スペイン語・韓国語・ロシア語）科目の特色

国際交流の進展にかんがみ、スペイン語・韓国語・ロシア語を随意選択外国語として設置しています。この随意選択外国語は、それぞれ最多で4科目（I A/B, II A/Bで、Aが前学期、Bが後学期、各1単位）4単位（1×4）まで履修できます。

随意選択外国語で修得した単位はI群からVII群までの中から選択する科目の単位数（学科によって異なる）の範囲内で卒業単位に算入できますが、必修外国語や選択必修外国語の単位としては認定されないので、要注意です。随意選択外国語（スペイン語・韓国語・ロシア語）科目には以下のような科目が設置されています。

〈1〉スペイン語・韓国語・ロシア語 I A/B

I A/Bは初級クラスで、それぞれの外国語の基礎的構造を文法学習や教本講読を通じて学修し、さらに初歩的な会話練習も行います。

〈2〉スペイン語・韓国語・ロシア語 II A/B

II A/Bは中級クラスであり、それぞれの外国語のI A・Bで得た知識を基礎としてさらに高度な語学力を身につけるものです。

〈3〉国際研修（韓）

毎年8月に韓国の新羅大学（釜山）で実施される短期語学研修（韓国語）に参加した人のための単位です。

随意選択外国語（スペイン語・韓国語・ロシア語）科目の履修方法

何年次で履修するかは諸君の裁量に任せられていますが、外国語を学ぶのは早い方が良い訳で、1年次より挑戦することが望ましいと言えます。ただしI A/B, II A/Bはレベル別になっていますので、I A/Bより順に受講することが必要です。多くの諸君が意欲的に履修するよう期待しています。

随意選択外国語はそれぞれ最多で4科目（I A/B, II A/Bで、Aが前学期、Bが後学期、各1単位）4単位（1×4）まで履修できますが、その修得単位はI群からVII群までの中から選択する科目の単位数（学科によって異なる）の範囲内で卒業単位に算入できるものの、必修外国語や選択必修外国語の単位としては認定されないので、要注意です。

スペイン語の学修方法

英語はビジネスのための言葉、フランス語は愛を語る言葉、そしてスペイン語は神様と話す言葉であると何度か聞いたことがあります。英語はてきぱきした響きがあり、フランス語はロマンチックな響き、スペイン語は荘厳な感じがするのかもしれませんが。初めてスペイン語を聞いたなら、なんてほのぼのとした愛嬌のある暖かい感じの言葉だと思ってしまうでしょう。トルティーヤ、エル・ニーニョ、タント……日本でよく見かけるスペイン語ですが、親近感が沸く響きでしょう。しかもスペイン語の発音は、英語よりもずっと簡単です。いくつかのスペイン語独特なものを除いてローマ字読みとほぼ同じです。だから、g, j, ll, n, rなどスペイン語独特の発音さえマスターしてしまえば、せっかく覚えたフレーズを旅先で言ったのに、通じないということはないでしょう。学修した表現をどンドン声に出してみましょう。

文法は初め覚えることが多く、躊躇するかもしれません。名詞には男性形と女性形があります。形容詞は名詞にあわせて語尾が変化します。そしてスペイン語の最難関は動詞の活用です。これは繰り返し練習するしかないでしょう。「学問に王道なしNo hay atajo sin trabajo」です。とはいえ、これもスペイン語の動詞には基本

韓国語の学修方法

的に語尾が-ar, -er, irの3つのグループがあることを踏まえ、体系的に覚えれば恐れるほどのものではありません。

また、どんな外国語の勉強にもあてはまることですが、必ず辞書を用意すること。そして辞書を引く労を惜しまないようにすることが大切です。スペイン語圏はスペイン本国だけではなく、中南米、アフリカの赤道ギニアなど広範であり、スペイン語人口は4億人とも5億人とも言われています。したがって国連の公用語のひとつにもなっており、実用的であり、その文化も多種多様です。フラメンコ、サルサ、サッカー、ピカソ、ガウディ、パエリヤ、タコス、遺跡などなど興味深いことがたくさんあります。それらの情報はインターネットを通じて簡単に手に入れることができます。最近ではスペイン語圏の映画もよく上映されるようになってきました。是非、言葉だけではなく、その後ろにあるものにも触れてみましょう。そして楽しく勉強していきましょう。

日本語話者にとって、韓国語は当然ながら外国語にほかなりません。韓国語の音や文字を耳にしたことのある人は、激しい音や抑揚、四角(□)と丸(○)に縦横の線と点の組み合わせで形成されている文字(ハングル)に戸惑いをおぼえるかもしれません。

その一方で、韓国語の音声と文字について、自発的に興味を持ち、一度でもその仕組みについて学んだことのある人ならば、これだけ日本語に類似し、学びやすい言語も多くないと実感したはずです。同じ言語系統に属し、漢語を媒介として語彙の八割以上を共有しているからこそでしょう。つまり欧米語学習のように、語順の複雑な置き換えが不要なのはいうまでもなく、全く異なった概念に対処しなければならないということもなく、頭脳の煩雑な作業が省かれて済むのです。これを欧米語間関係にたとえると、英語とドイツ語との比に近いものでしょう。

しかしながら、韓国語は総じて学修しやすいかもしれませんが、やさしい言語では決してありません。というのも、日本語に比べ、かなり複雑な音韻体系を有しているからだけでなく、実は奇しくも日本語と大変似通っている言語だけに難解さが存在するのです。つまり言語に必然的に溶け込んでいる人々の感情や、言葉の何気ない意味作用、ひいてはそれを基に絶え間なく行われる(日常・非日常を問わず)コミュニケーションのあり方において、韓国語と日本語の間には少なからざるギャップが散見されるので、時にはそのことが意思疎通の大きな妨げにもなりかねないのです。少し複雑だと思われるかもしれませんが、ここにこそ日本語話者の韓国語学習に対する醍醐味が存在する訳です。そのことは、韓国語話者の日本語学習のケースでも同じであることはいうまでもありません。また、さらには今日の日本と韓国との間に横たわる諸問題を考える上でも、これは有効かつ重要な要素を含んでいると思われるのです。

ズドラーストヴァイチェ！皆さんこんにちは！ロシア語が世界で重要な言語の1つであることは皆さんもよくご存知でしょう。世界で約2億5千万人の人々に話されており、これは日本語の約2倍にあたります。なるほど、ロシア語は今日本ではかつてほど人気がないかもしれませんが、ヨーロッパを中心に学習人口が大変に多く、ロシア語が話せると多くの国と人とコミュニケーションを取ることができる重要な言語です。

ロシア語は「インド・ヨーロッパ語族」に属しており、これはインドからヨーロッパにかけて広く分布しています。ヨーロッパでのこの語族の1つは英語・ドイツ語などの「ゲルマン語」、もう1つはフランス語・スペイン語などの「イタリック・ケルト語」、そして更に「スラブ語」です。このスラブ語にはロシア語・ウクライナ語・ベラルーシ語、ポーランド語、チェコ語、スロバキア語、ブルガリア語、セルボ・クロアチア語などがあります。ロシア語はこのスラブ語の中の代表的な存在です。

ロシア語は入口がとて難解です。強調しても強調しすぎることはないのですが、最初はとて難しく感じるでしょう。しかし、それを乗り越えれば後は楽です。まず、発音をきちんと覚えることです。正しい発音ができれば、リスニングはそう難しくはないはずで、英語やフランス語の聞き取りづらさに比べるとはるかに易しいと言えるでしょう。これはロシア語の最大の利点です。

ロシア語の文字は「キリル文字」といって、ギリシア語に由来しています。私たちは英語に慣れ親しんでいるので、最初は違和感を覚えるでしょう。しかし、これは慣れの問題です。小学校でひらがな・カタカナを覚えたとき払った努力を思い出せば、キリル文字を覚えるのはそれほど難しくはないと思います。

外国語はどれでも最初は違和感があります。それを克服したとき、外国語を学ぶ喜びを知ることができます。学べば学ぶほど、新鮮な驚きと喜びを感じると同時に視野が広がります。新しい外国語を学ぶたびに、地平線が広がっていくのを感じるでしょう。そのような広い視野を持った人間が21世紀をリードして行くのです。どうぞ果敢に挑戦してみて欲しいと思います。

外国語科目領域 教育課程の編成及び実施に関する方針

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 (コンピテンス)	能力 (コンピテンシー)	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	〔DP-1〕 社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。	〔CP-1〕 ・人文科学系外国語文献の読解（言語文化の理解）を通じ、国際人に必須の多様な価値を許容する倫理観を養い、国際交流に貢献できる人材を育成する。
日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	〔DP-2〕 日本及び世界の法、政治、行政、経済及びジャーナリズムの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。	〔CP-2〕 ・社会科学系外国語文献の読解（言語文化の理解）を通じ、自国の社会システムを相対的に捉える視点を養い、世界の問題を複眼的に理解することができる人材を育成する。
論理的・批判的思考力	〔DP-3〕 社会科学の基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。	〔CP-3〕 ・外国語文献の読解（言語文化の理解）を通じ、論理的思考を養い、人間（社会）について批判的に考える力を養成する。
問題発見・解決力	〔DP-4〕 社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的にかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	〔CP-4〕 ・外国語文献の読解（言語文化の理解）を通じ、想像力と発想力を養い、独創的な視点から問題を発見し解決策を提案することができる人材を養成する。
挑戦力	〔DP-5〕 法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。	〔CP-5〕 ・資格試験の受験や海外研修等への参加を通じ、積極的かつ自主的に行動する習慣を身につけ、学生生活・就職活動等において、果敢に挑戦できる人材を育成する。
コミュニケーション力	〔DP-6〕 多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝えることができる。	〔CP-6〕 ・複数言語の学修を通じ、自国の言語文化を相対化する視点を養い、自国の文化を世界に発信できる人材を育成する。
リーダーシップ・協働力	〔DP-7〕 社会・共同体のさまざまな活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重し、自らすすんで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	〔CP-7〕 ・演習や海外研修等への参加を通じ、他者と積極的に協働するなかで、互いに長所を見出し、支援できる人材を育成する。
省察力	〔DP-8〕 他者からの評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。	〔CP-8〕 ・演習や海外研修等における他者との関わりを客観的に振り返ることを通じて、自己がどのように変化したかを省察し、多様な価値観を許容するグローバルな視野を確立することができる力を養成する。

〔C P〕 カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成及び実施に関する方針

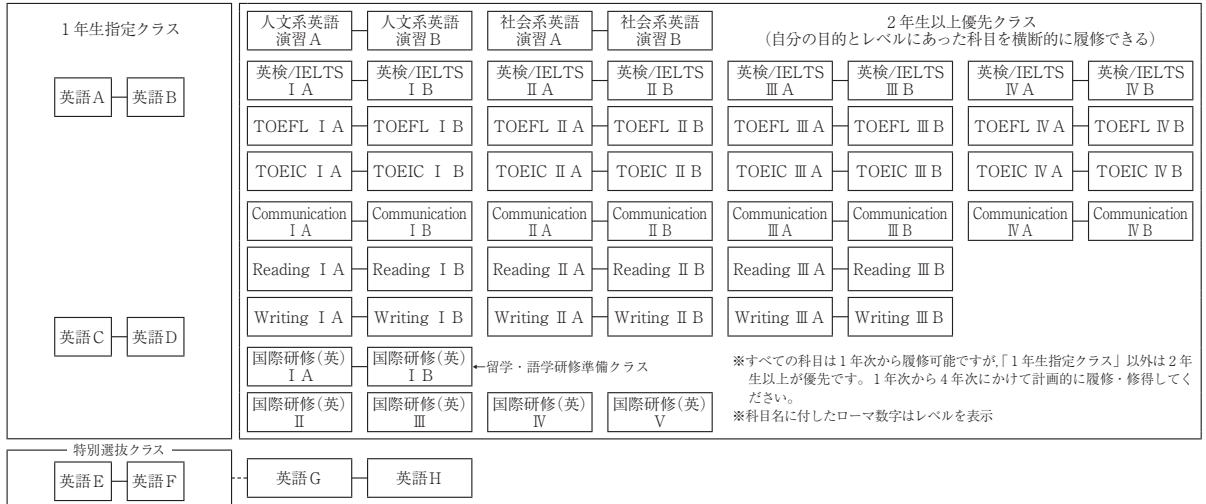
〔D P〕 ディプロマ・ポリシー：卒業の認定に関する方針

外国語科目 履修系統図

科目群の学修・教育目標

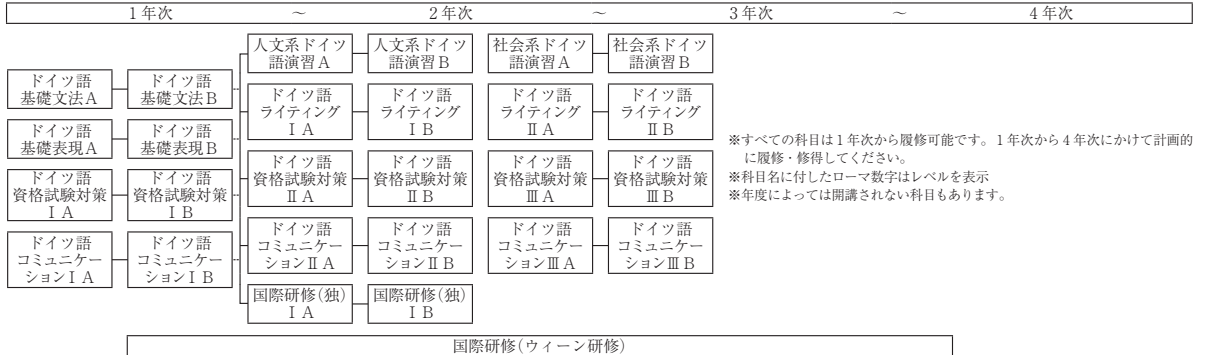
・英語

1年生指定クラスでは、資格試験や専門分野の学習に必要なリーディング・文法（英語A/B）、スピーキング・リスニング（英語C/D）等の基礎を固める。
2年次以降では、その応用として、個別の技能（Reading, Writing, Listening & Speaking）や資格試験（英検/IELTS, TOEFL, TOEIC）に特化した科目、および人文科学と社会科学を演習形態で学ぶ科目（英語演習）を任意に選び、国際的教養人に相応しい能力と素養を身につける。



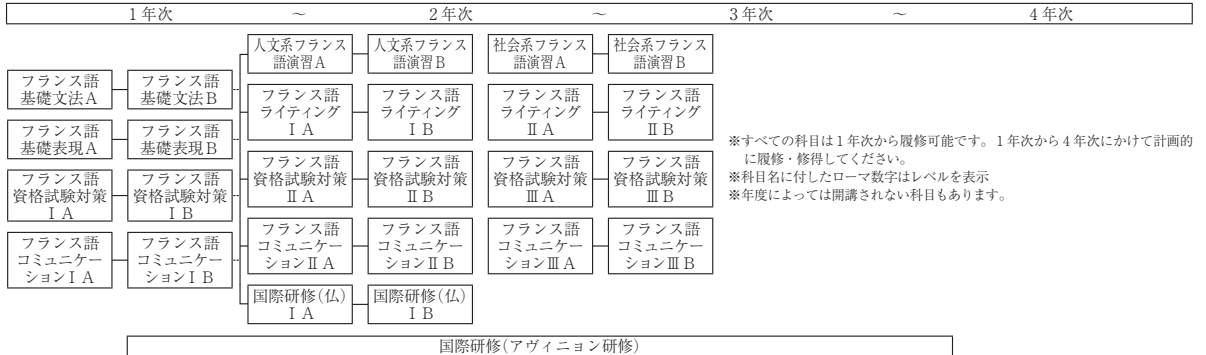
・ドイツ語

・言語習得を通して英語圏以外の文化に対する理解を深める。
・専門文献を読むための読解力を身につける。
・就職のために英語以外の語学能力を証明する資格を取得する。
・グローバル化に対応した高度なコミュニケーション能力を身につける。



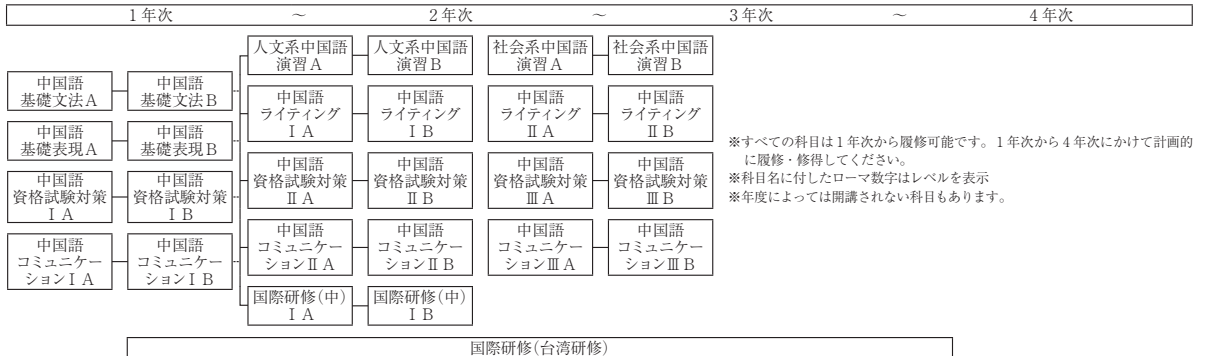
・フランス語

・言語習得を通して英語圏以外の文化に対する理解を深める。
・専門文献を読むための読解力を身につける。
・就職のために英語以外の語学能力を証明する資格を取得する。
・グローバル化に対応した高度なコミュニケーション能力を身につける。



・中国語

・言語習得を通して英語圏以外の文化に対する理解を深める。
・専門文献を読むための読解力を身につける。
・就職のために英語以外の語学能力を証明する資格を取得する。
・グローバル化に対応した高度なコミュニケーション能力を身につける。



・随意外国語

第三の外国語を習得することで、より幅広いコミュニケーション能力を獲得する。多くの言語を学ぶことにより、多文化理解の素地を養い、国際人として活躍できる基盤とする。

